TRIBUNE SHIKOKU

編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。

情報提供や購読希望の方はご連絡ください。

☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューン tribuneしこく

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可　第1592号 令和7年4月15日（火曜日）

≪毎月5・15・25日発行≫
発行所　㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219　FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通 0318279
徳島大正銀行県庁支店/口座番号・普通 5283742
四国銀行徳島営業部/口座番号・普通 5151924
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

あせび温泉 やすらぎの郷 板野町

9種類の浴場設備を持つ「あせび温泉」の泉質は、アルカリ性の温泉法第2条該当泉質「イオウ成分」です。地下250mから自噴する水量は、県内有数です。浴用後は、お肌つるつる、ポッカポカ気分です。一度おこし下さい。

開館時間　10時から21時30分（入館は21時まで）
休館日　通常毎週水曜日
料金　中学生以上500円、3歳以上小学生以下300円
お得な回数券販売中。シャンプー類備付け
住所　板野郡板野町大坂字椋木原　板野ICから約10分
お問合せ　電話（088）672-1126（いいふろ）

とりびゅーん・しこく

株主が社長や副社長を追い出し、新経営陣が運営する㈱姫野組。元社長や元副社長が設立した新会社に社員が相次ぎ転職しているが、背景に二億四千三百万円の退職金をもらい院政を敷いていたX元社長の存在を指摘する怪文書。

万博にあわせて四月から国際チャーター便就航の神戸空港。韓国（インチョン）、台湾（台北、台中）、中国（上海、南京）間で週四十往復。年間経済効果予測は百四億円。五年後には定期便就航か。始動したばかりの徳島の国際便戦略に冷や水。

今秋台湾に阿波踊り派遣！吉安郷の游淑貞郷長と合意

徳島市議会・日台友好議員連盟「吉安郷」訪問団

阿波踊りで日台交流を…。徳島市議会の日台友好議員連盟の一行が四月十六日、台湾花蓮県吉安郷（郷は日本の市に相当）を訪問した。游淑貞郷長らと今後の交流活動について協議、今秋吉安郷に阿波踊り連を派遣することで合意した。訪問団は移民村の面影が残る慶修院や被災者の支援活動で知られる財団法人「台湾仏教慈済慈善事業基金会」本部も視察。観光や震災対策など幅広い分野での交流の可能性を探った。

徳島市議七人が吉安郷を表敬訪問

訪問団は井上武市議（議員連盟会長）のほか、斎藤智彦市議、本田泰広市議、梯学市議、美馬秀夫市議、加村祐志市議、春田洋市議ら総勢七人。超党派のメンバーだ。

吉安郷は徳島市と友好交流協定を結ぶ台湾東部の郷（市）。昨年十二月、游淑貞郷長らが徳島市を表敬訪問。今回の議員団の吉安郷訪問は昨年の返礼の意味もある。

訪問団は十六日、好客芸術村での歓迎式典に臨んだ。井上会長が游淑貞郷長に遠藤市長の親書を手渡し、吉安郷と徳島市の今後の交流活動について意見交換した。

好客芸術村は、吉安郷の交流施設。日本統治時代の移民村「吉野村」にあった神社跡を整備した。中国大陸から台湾に移住した客家と呼ばれる漢民族の文化も展示されている。

慶修院や慈済（ツーチー）本部も視察

好客芸術村での歓迎式典や視察の後、訪問団は吉安郷主催の懇親会に出席。井上会長が阿波踊りの南大阪連から託された台湾公演の要望書を游淑貞郷長に手渡した。

今年十一月の阿波踊り派遣で合意

内容は日台交流イベントとして、今秋に吉安郷での阿波踊り公演を提案するもの。南大阪連は昨年から台北駐大阪経済文化弁事処（大阪総領事館）を通じて申し入れていた。

移民村の歴史を伝える慶修院の境内や町中で踊り、移民として入植した先人の魂を慰霊しようというものだ。実現すれば花蓮県で初めて本格的な阿波踊りが披露されることになる。

井上会長から阿波踊り公演のオファーを受けた游淑貞郷長は、懇親会の席上「今年十一月に阿波踊りがやってきます」と発表。約四十人の出席者から大きな拍手が沸き起こった。

南大阪連は南大阪地域在住の徳島県人を中心に設立された踊り連。関西を中心に阿波踊りの普及活動を行っている。阿波踊りを通じた日台の文化交流も積極的に行っている。

台北駐大阪経済文化弁事処や徳島日台親善協会プロデュースで台湾の芸術祭やイベントに参加。高雄、台南、台中各市で踊りを披露。台湾国民に阿波踊りの楽しさを伝えている。

▲慶修院で日台交流の礎を築いた先人を慰霊する井上会長ら訪問団。

移民村の歴史持つ慶修院を訪問、震災復旧の現状を視察

議員連盟の井上会長は徳島日台親善協会の会長。踊り文化を通じた日台交流事業の一環として、游淑貞郷長に直談判。南大阪連の今年十一月の吉安郷公演を実現に導いた。

訪問団は慶修院や宜昌中学校、台湾仏教慈済慈善事業基金会本部も視察した。慶修院は真言宗の寺院。日本統治時代に「吉野村」と呼ばれた移民村での布教所として建立された。

現在は台湾の国家第三級古蹟に指定されている。移民の霊が祭られ、四国八十八か所の石像が安置されるなど、日台交流の歴史を偲ぶ観光スポットとなっている。

訪問団は陳義正執行長の案内で境内を視察。昨年四月の花蓮地震で破損した建物や石像など震災の傷跡を見て回り、陳義正執行長から復旧作業の現状について説明を受けた。

阿波踊りやケーキ作りで若き世代と交流

游淑貞郷長の案内で訪問した宜昌中学校では、生徒たちから心のこもった歓迎を受けた。同中学校は創立五十六年、二十八クラス・六百七十五名の生徒が在籍する。

英語の歌唱が花蓮県金メダルを受賞するなど吹奏楽部の活動が有名な中学校だ。体育館で歓迎の演奏が行われ、游淑貞郷長や訪問団が「時の流れに身をまかせ」などの歌を合唱した。

阿波踊りのよしこのもテープで流され、訪問団メンバーが踊りを披露。台湾関係者も踊りに飛び入り参加するなど、音楽と踊りを通した日台交流で盛り上がった。

宜昌中学校では、台湾特産のパイナップルケーキ作りも体験。生徒たちから指導を受けた訪問団がケーキづくりにチャレンジ。ケーキ作りの楽しさを共有した。

観光交流や震災対策を協議

台湾仏教慈済慈善事業基金会本部では、被災者を収容するテントセットや持ち運びができるベッドなど、基金会が開発した最先端の震災対応グッズなどを視察した。

震災対策の最先端を視察、台湾最大の慈善団体「慈済（ツーチー）」本部

台湾仏教慈済慈善事業基金は尼僧の釈證厳氏が設立した財団法人。台湾最大の慈善団体で、花蓮県に本部がある。台湾国民からは「慈済（ツーチー）」と呼ばれ親しまれている。

東日本大震災で台湾から日本に総額約二百五十億円の義援金が贈られたが、そのうち約八十五億円は「慈済（ツーチー）」が集めた義援金だった。日本など世界各地に支部がある。

本部を訪れた訪問団は公共部門責任者である劉釣安氏の案内で、テントセットや持ち運びベッドの設営などの実演を視察。ダンボールベッドの日本の避難所との違いを実感した。

吉安郷を訪問し、行政や中学校、民間の慈善団体との交流活動を展開した徳島市議会の訪問団。今年十一月の阿波踊り派遣など日台交流の実績を残した台湾視察だった。

■吉安郷（きつあんきょう）
台湾東部の花蓮県にある郷（日本の市に相当）。人口は県内第二位の約八万二千人。古くは原住民のアミ族の居住地だった。郷長は女性の游淑貞氏。現在二期目。

日本統治時代に九家族二十人の吉野川流域民が先遣隊として移住。「吉野村」と名付けられた移民村を作った。「吉野村」の名残は現在真言宗の寺院・慶修院に残っている。

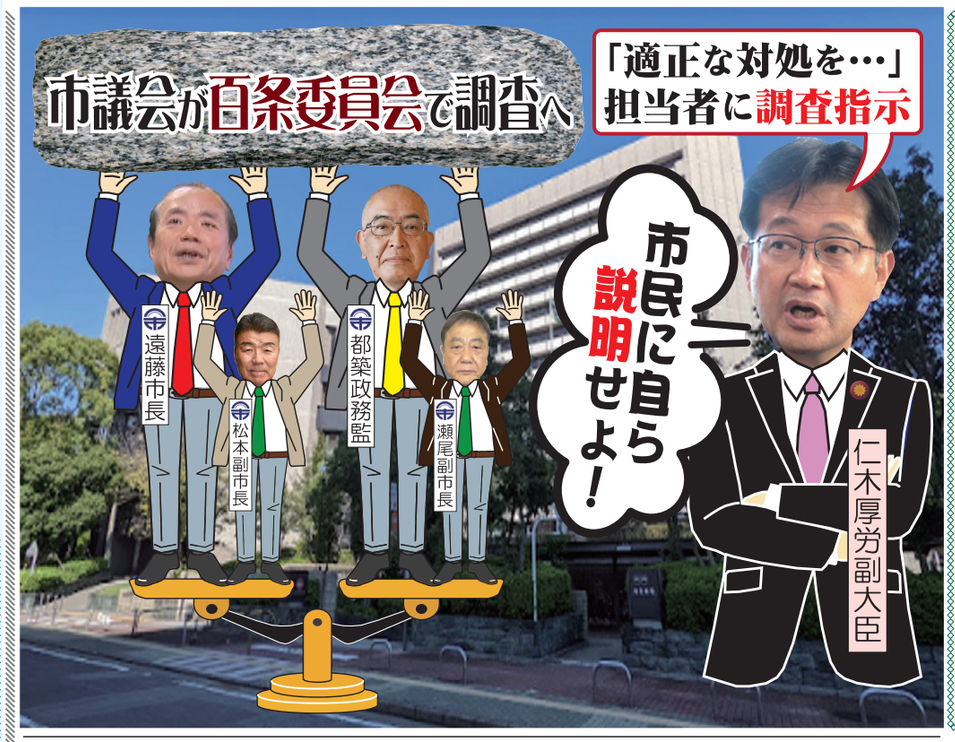
慶修院の境内には、四国八十八か所の仏像があり、「四国霊場巡りが楽しめる」と観光スポットになっている。昨年の花蓮地震で慶修院も被害を受け、現在復旧作業が行われている。

花蓮県は人口約三十二万人。大半は江戸時代に中国大陸から来た客家人など漢人だが、約四分の一は原住民族。蒋介石が大事にしたアミ族やタロコ族など五つの主要民族がある。

最大の観光地である太魯閣（タロコ）渓谷は昨年の地震で大きな被害を受け、現在も閉鎖中。観光業の損失試算は約二百五十億円。復旧には五年以上かかると見られている。

市議会が百条委員会で調査へ

「適正な対処を…」担当者に調査指示



「官僚には調査を命じた。県選出国会議員、厚労副大臣として、適正に対処してほしいと思う…」。徳島市で発覚した生活保護費の過払いと国庫負担金の不正請求問題。徳島市を選挙区とする仁木博文厚労副大臣によると、「徳島市が現在調査中」とのことだが、同市は約二十五年間問題を放置し、会計検査院も騙してきた不正請求の確信犯。自浄機能は期待できない。市議会の百条委員会が調査を行うが、国庫負担金を詐取され面子を潰された厚労省も強制調査に乗り出すべきだ。

徳島市が不正請求 生活保護・国庫負担金

「適正な対処を」と仁木厚労副大臣

仁木厚労副大臣は「本来なら国庫に返さないといけない部分があるが、その詳細は徳島市がいま調査中だ。徳島市の調査結果を待って判断する」との認識だ。

「徳島市から結果が出てきたら、国に報告するようになっていますので、適正に対処してほしいと思います。五年以内のもの（不正請求分）については返してもらいたいということです。

「ボールはいま徳島市にある」ということだが、徳島市に実態解明や自浄機能は期待できない。泥棒に「いくら盗んだのか」と自己申告させるようなものだ。

徳島市は過去二十五年間「放置」と「隠蔽」を繰り返してきた。生活保護受給者への保護費過払いを放置し、国庫負担金で返納金が発生しているのに、隠蔽していた。

過去五年間だけでも、過払いされた保護費は六、一九四万円。国への返納金は五、一八五万円。放置と隠蔽という不正の連鎖で国庫負担金を約二十五年間詐取し続けていた。

会計検査院も騙していた。令和四年五月の会計検査に対し、死亡廃止者の返納金だけ調定し、あたかもすべての返納金が調定されているかのように装い、虚偽報告していた。

問題発覚後も続く隠蔽の連鎖

問題発覚後も隠蔽の連鎖は続いた。県や市議会に過払いや不正請求の原因として、「不適切な会計処理」と説明したが、事実に基づかない責任逃れの虚偽説明だった。

原因は受給者への過払いを放置し、督促状の送付や国庫負担金の減額措置など、調定や債権管理と呼ばれる会計処理を一切行っていなかったからだ。職員の怠慢と問題先送りだ。

市当局は「事務的ミス」を強調するが、事務そのものが行われていなかった。放置と隠蔽で国庫負担金を騙し取っていた組織ぐるみの確信犯的な詐欺行為だった。

罪悪感や自浄機能を感じさせない徳島市の対応

遠藤市長は職員の内部告発やメディア報道を受け、都築政務監に実態解明と対策を指示したが、その対応は国庫負担金を詐取した罪悪感や自浄機能を感じさせないものだった。

一例が三月六日の県への報告書。過去五年間の過大請求額をペーパー二枚にまとめただけ。徳島市として詐取した国庫負担金をどうするか等事後対策や改善策は皆無だった。

本来なら五年間だけでなく、過去二十五年間の過払いや不正請求額をまとめ、厚労省に対し、詐取した国庫負担金の自主返納を申し出るべきだ。それが真摯な対応だ。

不正請求に気づかなかった厚労省、指摘されるチェックの甘さ

厚労省のチェックも甘い。徳島市の不正請求額は五年間で五、一八五万円。二十五年間なら約三億五、〇〇〇万円。三億円を超える国費詐取に全く気付かなかった。

自治体による生活保護国庫負担金の過大請求問題は平成五年に会計検査院が指摘。四十七県市に対し、総額一億八、五〇〇万円の返還を求め、厚労省には制度周知を指摘した。

会計検査院から四十七県市の過大請求が指摘された時に、担当官庁として全国自治体を対象として国庫負担金過大請求の類似事例がないかを総チェックすべきだった。

特に徳島市は平成元年に約五億円の国保交付金過大請求が発覚していた。厚労省関連の国費過大請求の「前歴自治体」として、厚労省もより注意深くチェックすべきだった。

県のチェックも甘かった。過大請求問題が担当課内で浮上したのは令和元年十一月。県の事務監査の時だった。当時の県担当者も徳島市による過大請求を察知していたはずだ。

遠藤市長に浮上する不正放置疑惑

問題放置疑惑が浮上する遠藤市長

市政トップの遠藤市長の問題放置疑惑も浮上している。一期目終盤の令和二年一月に、職員から国庫負担金の不正請求を指摘する文書を受け取っていたというものだ。

遠藤市長はメディア取材に「知らない」「覚えていない」とコメントしているが、不正請求問題を指摘した職員は遠藤市長に文書を郵送した証拠を現在も保持している。

もし遠藤市長が令和二年当時に生活保護費の過払いや国庫負担金の不正請求を黙認していたとしたら、法令に基づき仕事をする市長としての資質が問われることになる。

徳島市特別職の倫理条例では、市民の疑惑や不信を招くような行為を防止し、市政に対する市民の信頼を確保することを市長や副市長、政務監等の特別職に求めている。

遠藤市長に浮上した生活保護費過払いや国庫負担金不正請求の放置疑惑は、市民の疑惑や不信を招くような行為であり、特別職の倫理条例への抵触が問われるものだ。

不正請求された国庫負担金総額は「闇の中」

過去五年間だけでも五、〇〇〇万円を超える生活保護費過払いと国庫負担金不正請求。最大の問題はデータを毎年上書きしていたため、正確な過払い金額が不明だということだ。

厚労省は徳島市が現在行っている実態調査を待って不正請求分の返還を求める予定だが、実態を反映しない調査結果に基づく対応は百害あって一利なし。将来に禍根を残すだけだ。

約二十五年間、国庫負担金を詐取し続けた徳島市とノーチェックだった厚労省。実態調査が進行中だが、「不正請求総額は闇の中」というお粗末過ぎる結末になりそうだ。

ナイトスポット

大阪市北浜のラウンジでもてなしてくれたホステス嬢。優雅な物腰、落ち着いた接客で気分をリラックスさせてくれる。清楚な黒いワンピースがよく似合う。

本業はプロ野球・オリックスの本拠地、京セラドームのビールガールだとか。「試合がない時にホステス嬢に変身するんです」。気さくな性格で接客業を楽しんでいるようだ。

「関西万博が始まって、大阪は昼も夜も人が溢れています。万博景気に便乗して頑張ります」。あっけらかんとしたプラス志向のお嬢さんだ。

あなたの情報大募集!!

秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ず守り抜きます。

本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けできます。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。
「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。
社会に警鐘を鳴らす内告発や情報提供をどしどしお寄せください。

〒770-0874
徳島市ミナミ沖洲2丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

購読料：年間 8,400円
トリビューン・電子版 tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

阿波の番茶

「地方議会の学芸会と八百長」

学芸会と八百長…。片山元鳥取県知事が喝破した地方議会の現状だ。二元代表制が機能不全に陥り、首長と議員に丁々発止の攻防が求められる議会が茶番劇に堕している。

学芸会とは、本会議での議員と首長の質疑が本番前に作成された台本通り進められているということだ。事前に準備された質問書と答弁書を互いに読み合っている。

八百長とは、議会で審議する前に結論が決められていることを指す。首長と議員が応酬する真剣勝負が、実は事前に落とし所が決められている出来レースだということだ。

徳島県内の地方議会でもこの学芸会と八百長は常態化している。例えば県議会。本会議で質問する与党県議には、Q&Aが記載された台本が配られ、県議はそれを棒読みする。

たまに原稿を読み飛ばすというハプニングもあるが、県議と理事者が原稿を読み合う姿はまるで退屈な朗読会セレモニー。居眠り県議が出現するのも頷ける。

学芸会どころか、県議にネタを持ち掛け、政策誘導するケースもある。飯泉県政時代の香港チャーター便だ。当時の県幹部が重鎮県議にネタを振り、本会議で取り上げられた。

ネタ振りの代償は重かった。県議から「香港便は質問してやる。その代わり知事に湖南便中止を謝罪させろ」と逆土産を持たされ、飯泉知事が本会議で謝罪に追い込まれた。

「議会軽視だ」「市長軽視だ」と野党市議と遠藤市長が対立する徳島市議会は八百長色が薄い。与党市議には本会議前に答弁内容が知らされるが、野党市議には知らされない。

理由は野党市議が学芸会や八百長を拒否しているからだ。質問通告も「何々について」と告げるだけ。質問内容がわからないから、理事者も事前に回答が準備できない。

ぶっつけ本番の質疑が展開される徳島市議会。議論が噛み合わない一面もあるが、異論や反論が本会議場で交わされ、市民に政策形成のプロセスが公開されることになる。

地方議会の学芸会現象に危機感を抱く片山元鳥取県知事は、メディアにも「学芸会の片棒を担ぐな」と警句を発する。首長と議員の談合を「見て見ぬ振りするな」ということだ。

議員に事前配布されたQ&A文書など、現場には学芸会の「動かぬ証拠」がある。見て見ぬ振りは学芸会の片棒を担ぐことになり、二元代表制の機能不全を助長するだけだ。

首長が予算や政策を提案し、議会が審議し議決するのが二元代表制の基本だ。そのやり取りは密室や台本ありの学芸会でなく、公の場で申論乙駁、真剣勝負の論戦で行うべきだ。

南無大師遍照金剛。

NPOが8年間指定管理

隙間の声 疑惑招く！「親子鷹」の利益相反 『あいぽー』と徳島

「父と息子は利害関係者だった?!」。あいぽーと徳島の指定管理業務だ。息子はあいぽーと徳島担当の県男女参画・人権課の前課長。父は運営委託されたNPO法人理事長だ。

あいぽーと徳島の正式名称は徳島県立人権教育啓発推進センター。徳島市のマリンピア沖洲にある県有施設だ。NPO法人徳島ヒューマンネットが県から指定されて管理運営する。

事業内容は人権教育啓発推進事業。講演会やセミナー開催、人権推進員の派遣、図書貸出し、動画配信、アドバイザー事業、センターの運営など様々な人権啓発を行っている。

男女参画・人権課と徳島ヒューマンネットは発注者と受注者の関係。男女参画・人権課が毎年六、一六〇万円の管理料を渡し、あいぽーと徳島はそれを財源に業務を行う。

男女参画・人権課は徳島ヒューマンネットが作成した事業計画を認定、管理運営業務をチェックし、評価する。男女参画・人権課は徳島ヒューマンネットの「お目付役」だ。

公共事業の発注者と受注者という利害関係にある男女参画・人権課と徳島ヒューマンネットだが、親族の絆でも結ばれていた。理事長と前課長が親子関係だった。

徳島ヒューマンネットの理事長は大西智城氏。真言宗御室派願成寺の住職だ。京都の仁和寺顧問を務めるなど、徳島の仏教界を代表する人物。人情溢れる人生講話で有名だ。

男女参画・人権課の昨年度の課長は大西秀城氏。徳島ヒューマンネットの大西理事長の長男だ。令和五年度に課長に就任。今年四月人事で保健福祉部次長に昇格した。

担当責任者として父親が理事長のNPO法人の仕事ぶりに目を光らせていた大西次長。公私混同やえこひいきがなければ問題ないが、その利益相反関係は県民の疑惑を招くものだ。

男女参画・人権課は毎年、徳島ヒューマンネットの仕事ぶりをチェックし、四ランクの評価を行っている。令和五年度の評価表では「適正な管理が行われている」とAランクだ。

大西次長は手堅い仕事ぶりで知られる能吏。「なぜわざわざ疑惑を招くような人事をしたのか。あえてやったのか」と県の人事行政のボーンヘッドを問う声も上がっている。

徳島ヒューマンネットは県OBの受け皿NPO法人としても知られる。森谷事務局長、阿部次長は共に県OB。実質的にあいぽーと徳島とNPO法人の運営を仕切っている。

年間六、一六〇万円を県からもらう徳島ヒューマンネット。そのうち二、四四七万円は人件費。県費が流れ込む指定管理者に県OBが群がり、「天下り利権」の温床になっている。

森谷事務局長は県保健福祉部次長や長寿保険政策局長を歴任した人権行政のプロ。大西次長の先輩だ。父親が理事長、先輩が事務局長のNPO法人を厳正にチェックできたのか。

親子関係や県庁人脈が絡み合うあいぽーと徳島の指定管理業務。契約は令和九年三月まで。県民の疑惑を招かないためにも、業者選定の在り方を再考すべきだ。神のご加護を。

障がい者交流センターを管理する（社福）県社会福祉事業団。黒字なのに赤字を装い、指定管理料が増額されていた。外部監査人が「極めて不適切」と指摘。